

令和4年度 墨田区立第三吾孺小学校 学校経営計画・学校評価表（自己評価・学校関係者評価）

令和4年4月22日作成/令和5年2月7日追記（指標・評価・分析・改善策）/令和5年2月9日追記（学校関係者評価）

学校教育目標	「自立」 自ら学び、考え、行動する人 「共生」 思いやりをもち、共に生きる人 「健康」 しなやかで丈夫なところからだをもつ人
○目指す学校像	「すべてはみんなの笑顔のために」 三吾小に集う子供、保護者・地域、そして教職員 すべての人の笑顔あふれる学校
○目指す児童像	「学ぶ」ということを通して、「思いやり」の上に立つ真の教養と品格とを身に付けようとする子供 そのために、主体的(proactive)に生きる子供
○目指す教師像	①教育への情熱と使命感にあふれた教師 ②自らも学び、子供とともに感動することのできる教師 ③社会人としての教養と品格のある教師

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価
児童の教育	【人権尊重】	道徳の授業を中心に、全教育活動を通して思いやりのこころを育てる。	基本的な人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に差別やいじめの防止に取り組む。	4 教アで90%以上が組織的に対応したと回答 3 教アで80%以上の教職員が組織的に対応したと回答 2 教アで70%以上の教職員が組織的に対応したと回答 1 教アで組織的に対応したと回答した教職員が70%未満	4 3 2 1	4 認知したいじめ問題に100%対応、95%以上解決 3 認知したいじめ問題に100%対応、90%以上解決 2 認知したいじめ問題に100%対応、80%以上解決 1 解決80%未満、または対応できないケースがあった	1	・認知した件数は5件で、3件は解消の見込みである。2件は経過観察として、慎重に見守りを続けている。校内委員会を通じて、全件において対応はできている。	・児童の様子を丁寧に観察するとともに、いじめ防止基本方針に則り、早期の段階で「学校いじめ対策委員会」を通して組織的に対応する。	・丁寧に経過観察を行い、解決できていると安易にしていない。常に真摯に対応を行っている。 ・課題が多くある。早期に見えてくる体制作りを確立してほしい。 ・子供たちは、いじめとは思っていない場合があるのを見極めが難しい。	3.4
	【自主自立・自律の態度の育成】	自分で考え、正しく行動する力を育成する。	「三吾あいことば」を徹底し、自主自立・自律の生活態度を身に付けさせる。	4 教アで90%以上が「徹底して指導した」と回答 3 教アで85%以上が「徹底して指導した」と回答 2 教アで80%以上が「徹底して指導した」と回答 1 教アで「徹底して指導した」と回答した教職員が80%未満	4 3 2 1	4 見アで90%以上が「意識して生活している」と回答 3 見アで80%以上が「意識して生活している」と回答 2 見アで70%以上が「意識して生活している」と回答 1 見アで「意識して生活している」児童が70%未満	3	・代表委員会が「三吾あいことば」の動画作成や「ふわふわ言葉」のアンケート実施の取組を行った。項目によって意識の高さに差が見られた。	・生活指導の週目標で計画的に「あいことば」について指導するとともに、児童会活動を通して主体的な取組も継続する。	・児童が主体的に発信していくことを重視。 ・言葉遣いについての指導はありがたい。児童に強制ではなく、定着して身に付けるとい取組は良い。 ・個人差があるため、考えて行ってほしい。児童にとって、なじみのない事情があるように感じる。 ・各家庭の問題でもあるが、登校時に遅く来る児童が少し多い気がする。	3.2
	【主体性・リーダーシップを発揮する習慣】	児童の主体性を育み、自らリーダーシップを発揮する習慣をつけさせる。	特別活動（集団活動）を工夫し、児童自身に活躍の場を与え、児童の自己肯定感を高める。	4 教アで90%以上が「特活（行事、委員会、クラブ、係等）で、児童が、主体性をもち活躍する場を設け」と回答 3 教アで85%以上が「特活（学校行事、委員会、クラブ活動、学級の当番・係活動）で、児童が、主体性をもち活躍する場を設け」と回答 2 教アで80%以上が「特活（学校行事、委員会、クラブ活動、学級の当番・係活動）で、児童が、主体性をもち活躍する場を設け」と回答 1 教アで「特活（学校行事、委員会、クラブ活動、学級の当番・係活動）で、児童が、主体性をもち活躍する場を設け」が80%未満	4 3 2 1	4 児童アで「特活（学校行事、委員会、クラブ活動、学級の当番・係活動）に、意欲的に取り組んだ。」に90%以上が肯定的回答 3 児童アで「特活（学校行事、委員会、クラブ活動、学級の当番・係活動）に、意欲的に取り組んだ。」に85%以上が肯定的回答 2 児童アで「特活（学校行事、委員会、クラブ活動、学級の当番・係活動）に、意欲的に取り組んだ。」に80%以上が肯定的回答 1 児童アで「特活（学校行事、委員会、クラブ活動、学級の当番・係活動）に、意欲的に取り組んだ。」が80%未満	4	・感染症予防のために縮小していた行事、取組を、少しずつ従来の形に戻してきた結果、特別活動に主体的に取り組むことができたと感じている児童が9割を超えた。	・児童が主体的に活動するためのクラブ・委員会編成を工夫し、感染症予防に配慮しながら児童の活躍の場を確保する。	・今できるベストを尽くしている。 ・福祉ボランティア委員会ができ、児童が主体的に取り組む機会が増えた。 ・行事も学校側、教員が工夫し、少しずつできることが増え、児童の意欲が上がってきた。行事や活動を楽しみにしている児童が多い。	4
	【21世紀を生きるための確かな学力の向上】	主体的対話的な学習活動を通して、生きて働く知識・技能の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成する。	振り返りを重視し、アウトプットさせる学習を徹底して、基礎・基本的な学力の定着を図る。	4 教アで90%以上が「学力向上委員会が提案した内容と期間で、アウトプット学習を実施」と回答 3 教アで85%以上が「学力向上委員会が提案した内容と期間で、アウトプット学習を実施」と回答 2 教アで80%以上が「学力向上委員会が提案した内容と期間で、アウトプット学習を実施」と回答 1 教アで「学力向上委員会が提案した内容と期間で、アウトプット学習を実施」が80%未満	4 3 2 1	4 算数実力テスト（1月末学校独自）標準偏差値が昨年度1月末実施と比較し+2ポイント 3 算数実力テスト（1月末学校独自）標準偏差値が昨年度1月末実施と比較し+1ポイント 2 算数実力テスト（1月末学校独自）標準偏差値が昨年度1月末実施と比較し+0ポイント 1 算数実力テスト（1月末学校独自）標準偏差値が昨年度1月末実施と比較しマイナス	1	・学力向上委員会を中心に、全校で計画的な取組を行い、墨田区学力調査では目標を達成することができた。	・学力向上委員会を中心に、学力の実態把握、分析を行い、タブレット端末も活用しながら効果的な振り返り学習を実施する。	・タブレット端末の有効活用により学習に意欲的に取り組み、学習内容が定着できる。 ・タブレット端末の安全な使い方を、授業以外の使い方は、少し注意が必要である。 ・タブレット端末の活用が他校と比べ多いと感じる。これが学習・学力の向上につながるかの判断は、まだ時間がかかる。 ・教員の指導が良い。	3.6
	【健康、安全教育】	自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する。	コロナ禍の体育の授業改善・体育的行事の工夫を行い、運動能力・体力の向上を図る。	4 教員アで90%以上が「校内研究に沿った授業改善を実施」と回答 3 教員アで85%以上が「校内研究に沿った授業改善を実施」と回答 2 教員アで80%以上が「校内研究に沿った授業改善を実施」と回答 1 教員アで「校内研究に沿った授業改善を実施」が80%未満	4 3 2 1	4 学力診断テスト後期（業者テスト）で「思考・判断・表現」の習熟度が平均90%以上 3 学力診断テスト後期（業者テスト）で「思考・判断・表現」の習熟度が平均80%以上 2 学力診断テスト後期（業者テスト）で「思考・判断・表現」の習熟度が平均70%以上 1 学力診断テスト後期（業者テスト）で「思考・判断・表現」の習熟度が平均70%未満	2	・年6回授業研究会に加え、全教員年間3回授業観察等を通して、「自分の考えをすすんで表現する算数科の授業」を目指して授業改善に取り組んだ。 ・算数後期業者テスト（思考・判断・表現）校内平均76%。1年88%、6年69%。高学年進行とともに下がる傾向がある。	・研究推進委員会や学力向上委員会が計画する授業改善・基礎学力定着の取組を徹底する。	・授業内容が見直され、自ら考える課題が増えていると考える。	3.4
	【健康、安全教育】	自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する。	避難訓練、安全指導等を通して、災害や不審者に自ら対応できる危機回避能力を育成する。	4 全学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 3 90%の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 2 80%の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 1 適切な教材を使用し効果的な防災教育を行った学級が80%未満	4 3 2 1	4 予告なしの訓練で避難完了まで5分以内 3 予告なしの訓練で避難完了まで6分以内 2 予告なしの訓練で避難完了まで7分以内 1 予告なしの訓練で避難完了まで7分以上	3	・感染対策として実施。握力に課題、長座体前屈は良好。全8項目中、区平均以上が半数4項目以上は、1年男、4年男女、5年男女、6年男。学年男女ごとの課題を踏まえ体育学習の改善を図り、児童の運動習慣定着につなげる。	・感染症予防対策に配慮しながら「体力向上」を推進する。校内体育部より、体育授業改善案を発信したり、体育朝会を実施したりする。	・コロナの状況が改善すれば、変化が見えてくると考える。コロナ禍で体力は落ちたが、児童が楽しみながら体力作りができる工夫がされている。 ・コロナ禍で外遊びが制限され、家庭内での時間が増えた。好き嫌いがあるため、数食にはおかわりにくい。春休みの休みにボールを投げたりなどでも体力向上を図るべきではないか。 ・体育については成績だけでなく、個人に合わせた評価や指導が必要なものと思う。	2.8
【健康、安全教育】	自らの生活を振り返り、自分の健康、安全を向上させる力を育成する。	登校直後や清掃時間など、多様な設定で実施してきた。感染症予防対策のため実施しなかつた全校避難も、今年度より実施している。	4 全学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 3 90%の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 2 80%の学級が、適切な教材を使用し効果的な防災教育を実施 1 適切な教材を使用し効果的な防災教育を行った学級が80%未満	4 3 2 1	4 予告なしの訓練で避難完了まで5分以内 3 予告なしの訓練で避難完了まで6分以内 2 予告なしの訓練で避難完了まで7分以内 1 予告なしの訓練で避難完了まで7分以上	3	・感染対策については、十分できていると思う。継続して実施してほしい。 ・感染予防も大切だが、避難訓練などは必要なので続けてほしい。避難訓練や引き取り訓練には、児童館・学童も参加している。連絡体制など、とても良くできている。	・感染症予防対策に配慮しながら、さらに多様な設定で全校避難の訓練を計画・実施していく。	・継続して実施してほしい。 ・本物を見せるということは、とても良いことだと思う。 ・グストティーチャーは児童も楽しみにしている。これからも実施してほしい。いろいろな大人と関わることで児童の考え方や視野も広がると思う。	3.3	
地域、開かれた学校	【地域と協働した子育て、開かれた学校】 学校を積極的に開いて、地域と学び、地域から学ぶ教育を推進する。	地域の教育財産を生かし、地域を知り、地域を愛し、誇りに思う児童を育成する。	キャリア教育特別授業をはじめ、地域のグストティーチャーを積極的に招聘し、体験的な学習の充実を図る。	4 ゲストティーチャーを活用した授業を年間7回実施 3 ゲストティーチャーを活用した授業を年間5回実施 2 ゲストティーチャーを活用した授業を年間3回実施 1 ゲストティーチャーを活用した授業を年間3回未満	4 3 2 1	4 見アで90%以上が「ゲストティーチャーと行う学習のめあてを達成した」と回答 3 見アで80%以上が「ゲストティーチャーと行う学習のめあてを達成した」と回答 2 見アで70%以上が「ゲストティーチャーと行う学習のめあてを達成した」と回答 1 見アで「ゲストティーチャーと行う学習のめあてを達成した」児童が70%未満	3	・「水墨画」「キャリア」「巨人軍」等を実施。GT授業回数、1年2回、2年3回、3年6回、4年7回、5年4回、6年6回、全学年平均4.0回。学年で回数に差が生じた。継続、教員委員会と連携の取組は予定に沿って実施できたが、新規取組には消極的となっていました。	・招くことができなかったGTとの引き継ぎを確実に、可能になった段階で実施できるよう準備しておく。 ・新たな取組、GTを新規開拓できるように、年間計画を立てる。	・児童の状況の発信や授業公開を通して保護者に学校の思いが伝わり、保護者が認知できている。 ・「三吾小に入学してよかった」の評価が前年から落ち、残念である。 ・実際に児童の様子、クラスの雰囲気を見て知ることも大事なことで、保護者が見る機会が増えてよかった。	3.8
教職員	【教職員の資質・能力の向上、働き方改革推進】	サービス事故を「起こさない、起こさせない」教職員集団の指導・育成を図る。	年4回の定期研修に加え、区の研修資料を活用し、月1回のサービス事故防止研修を実施する。	4 教アで100%が「当事者意識をもって各研修を受講」と回答 3 教アで95%が「当事者意識をもって各研修を受講」と回答 2 教アで90%が「当事者意識をもって各研修を受講」と回答 1 教アで「当事者意識をもって各研修を受講」と回答した教職員が90%未満	4 3 2 1	4 事故件数0、保アで教職員の信頼度90%以上 3 事故件数0、保アで教職員の信頼度85%以上 2 事故件数0、保アで教職員の信頼度80%以上 1 事故発生、または保アの信頼度80%未満	4	・問題形式のワークシートや人権教育プログラム等を活用し、計画的に研修を行った結果、サービス事故0件を達成。保ア「三吾小に入れた良かった。」肯定回答93.6%。	・常に当事者意識をもって研修に当たり、よりオープンな雰囲気の職場にできるような心がける。	・継続し意識を高く取り組んでほしい。 ・よく説明しないと分からない点があると思う。 ・サービス事故0件は、当然のことのように大変なことである。 ・教員がいつも熱心に教育活動をしているのを学校公開などで見られる。	3.7
	【教職員の資質・能力の向上、働き方改革推進】	校内研究、研修を充実し、教職員の指導力向上を図るとともに、計画的な学校評価に基づく経営改善を図る。教職員の働き方を改善し、健全な学校教育を推進する。	校内研究を推進し、指導力を高める。 ・経営支援部・中堅教員によるOJTの推進を図る。 ・朝礼講話、INAHOによる資質向上研修を実施する。	4 教アで90%が「各種研修に意欲的に参加」と回答 3 教アで85%が「各種研修に意欲的に参加」と回答 2 教アで80%が「各種研修に意欲的に参加」と回答 1 教アで「各種研修に意欲的に参加」と回答した教職員が80%未満	4 3 2 1	4 教アで90%が「各種の研修が自己の資質・能力向上に効果があった」と回答 3 教アで85%が「各種の研修が自己の資質・能力向上に効果があった」と回答 2 教アで80%が「各種の研修が自己の資質・能力向上に効果があった」と回答 1 教アで「各種の研修が自己の資質・能力向上に効果があった」と回答した教職員が80%未満	3	・年間6回校内研究授業実施。「自分の考えを表現することができる算数科の授業」の研修を深めた。 ・中堅教員による校内OJTを行った。 ・朝礼講話は100%、INAHOの編成は96%の教職員が実施した。	・校内研究授業を中心に研修を進め、授業力の向上を目指す。 ・校内OJT等を充実させ、教員の資質向上を目指す。	・時間制限がある中で大変かと思うが、若手とベテラン、それぞれの良い部分を共有できるとよい。 ・「自分の考えを表現すること」を教員が朝礼の講話で手本を示し、児童が興味をもって聞くことができた。	3.4
	【教職員の資質・能力の向上、働き方改革推進】	校務を整理し、教職員の働き方改革を推進して、教職員の身体的・精神的な健康を守る。	経営支援部を中心に校務を整理し、職員の平均時間外勤務月45時間以内を達成する。	4 教アで90%以上が「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答 3 教アで80%以上が「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答 2 教アで70%以上が「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答 1 教アで「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答した教職員が70%未満	4 3 2 1	4 平均時間外勤務月45時間以内を達成 3 平均時間外勤務月50時間以内を達成 2 平均時間外勤務月55時間以内を達成 1 平均時間外勤務月60時間より長い	3	・個人差はあるが、運動時間は早くなってきている。スクールサポートスタッフの活用などにより職務の負担軽減も進められている。教職員、平均時間外勤務月49.5時間。	・今後も職務の精選と効率化を常に念頭に置き、重点を決めて経営、運営を行う。	・業務改善に取り組まれ、運よく残業している教員が少なくなったと感じている。 ・職務改善は課題として大きい。現実化するのには一週一ヶ月ではとても難しいと思う。もっとスクールサポートスタッフや事務員の導入などが取り入れられたい。	3.6